

第70期 定時株主総会 招集ご通知



開催日時

2019年11月21日（木曜日）午前10時
受付開始：午前9時

開催場所

東京都千代田区鍛冶町二丁目1番10号
当社本社 3階会議室

議案

第1号議案 剰余金の処分の件
第2号議案 取締役（監査等委員である取締役を除く。）6名選任の件

企業理念／企業スローガン

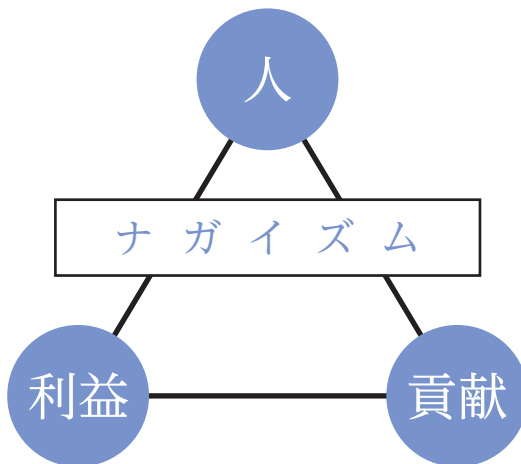
いのちの力になりたい。

社是 人の和

経営方針

「人、利益、貢献」をバランス良く熟成させ、
社会に求められる企業集団を目指す。

信じる力 ぶれない力 原理原則の探究



ビジネスモデル マーケット

お取引先様 女性支援
雇用創出 環境 株主還元

証券コード 7447
2019年11月1日

株 主 各 位

東京都千代田区鍛冶町二丁目1番10号
ナガイレーベン株式会社
代表取締役社長 澤 登 一 郎

第70期定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第70期定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面又はインターネットにより議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討くださいますようお願い申し上げます。後述のご案内に従って2019年11月20日（水曜日）午後5時30分までに議決権を行使してくださいようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 2019年11月21日（木曜日）午前10時（受付開始：午前9時）
2. 場 所 東京都千代田区鍛冶町二丁目1番10号
当社本社 3階会議室
3. 目的事項
報告事項
 1. 第70期（2018年9月1日から2019年8月31日まで）事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査等委員会の連結計算書類監査結果報告の件
 2. 第70期（2018年9月1日から2019年8月31日まで）計算書類報告の件

決議事項

- 第1号議案 剰余金の処分の件
- 第2号議案 取締役（監査等委員である取締役を除く。）6名選任の件

以 上

◎当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

◎次の事項につきましては、法令及び当社定款第16条の規定にもとづき、インターネット上の当社ウェブサイト（<https://www.nagaiben.co.jp>）に掲載しておりますので、本招集ご通知には記載していません。

①連結計算書類の連結注記表 ②計算書類の個別注記表

なお、本招集ご通知の添付書類に記載しております連結計算書類及び計算書類は、会計監査人及び監査等委員会が会計監査報告及び監査報告の作成に際して監査した連結計算書類及び計算書類の一部であります。

◎株主総会参考書類並びに事業報告、計算書類及び連結計算書類に修正すべき事項が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト（<https://www.nagaiben.co.jp>）に掲載させていただきます。

招集ご通知

株主総会参考書類

事業報告

計算書類




監査報告



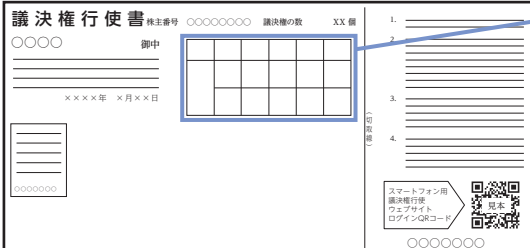
議決権行使についてのご案内

株主総会における議決権は、株主の皆様の大切な権利です。後記の株主総会参考書類をご検討のうえ、議決権を行使していただきますようお願い申し上げます。

議決権を行使する方法は、以下の3つの方法がございます。

 <p>株主総会にご出席される場合</p> <p>同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出ください。</p> <p>日 時</p> <p>2019年11月21日(木曜日) 午前10時(受付開始:午前9時)</p>	 <p>書面(郵送)で議決権を行使される場合</p> <p>同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示のうえ、ご返送ください。</p> <p>行使期限</p> <p>2019年11月20日(水曜日) 午後5時30分到着分まで</p>	 <p>インターネットで議決権を行使される場合</p> <p>次ページの案内に従って、議案の賛否をご入力ください。</p> <p>行使期限</p> <p>2019年11月20日(水曜日) 午後5時30分入力完了分まで</p>
--	---	---

議決権行使書用紙のご記入方法のご案内



議決権行使書 株主番号 ○○○○○○○○ 議決権の数 XX 票

御中

××××年 ×月××日

スマートフォン用
議決権行使
ウェブサイト
ログインQRコード

こちらに議案の賛否をご記入ください。

第1号議案

- 賛成の場合 >> 「賛」の欄に○印
- 反対する場合 >> 「否」の欄に○印

第2号議案

- 全員賛成の場合 >> 「賛」の欄に○印
- 全員反対する場合 >> 「否」の欄に○印
- 一部の候補者を反対する場合 >> 「賛」の欄に○印をし、反対する候補者の番号をご記入ください。

※議決権行使書はイメージです。

書面(郵送)及びインターネット等の両方で議決権行使をされた場合は、インターネット等による議決権行使を有効な議決権行使として取り扱いたします。また、インターネット等により複数回、議決権行使をされた場合は、最後に行われたものを有効な議決権行使として取り扱いたします。

インターネットによる議決権行使のご案内

QRコードを読み取る方法 「スマート行使」

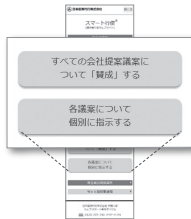
議決権行使コード及びパスワードを入力することなく議決権行使ウェブサイトへログインすることができます。

- 1 議決権行使書用紙右下に記載のQRコードを読み取ってください。



※「QRコード」は株式会社デンソーウェブの登録商標です。

- 2 以降は画面の案内に従って賛否をご入力ください。



「スマート行使」での議決権行使は1回に限り可能です。

議決権行使後に行使内容を変更する場合は、お手数ですがPC向けサイトへアクセスし、議決権行使書用紙に記載の「議決権行使コード」・「パスワード」を入力してログイン、再度議決権行使をお願いいたします。

※QRコードを再度読み取っていただくと、PC向けサイトへ遷移できます。

議決権行使コード・パスワードを入力する方法

議決権行使ウェブサイト <https://www.e-sokai.jp>

- 1 議決権行使ウェブサイトへアクセスしてください。



「次へすすむ」をクリック

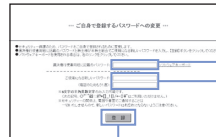
- 2 議決権行使書用紙に記載された「議決権行使コード」をご入力ください。



「議決権行使コード」を入力

「ログイン」をクリック

- 3 議決権行使書用紙に記載された「パスワード」をご入力ください。



「初期パスワード」を入力

実際にご使用になる新しいパスワードを設定してください

「登録」をクリック

- 4 以降は画面の案内に従って賛否をご入力ください。

※操作画面はイメージです。

インターネットによる議決権行使でパソコンやスマートフォン、携帯電話の操作方法などが不明な場合は、右記にお問い合わせください。

日本証券代行株式会社 代理人部 ウェブサポート専用ダイヤル
【電話】0120 (707) 743

受付時間 9:00～21:00 (土曜、日曜、祝日も受付)

株主総会参考書類

議案及び参考事項

第1号議案 剰余金の処分の件

第70期の期末配当金については、1株当たり60円とすることとし、今後の事業展開等を勘案し、内部留保にも意を用い、以下のとおり剰余金を処分いたしたいと存じます。

1. 期末配当に関する事項

- (1) 配当財産の種類
金銭といたします。
- (2) 株主に対する配当財産の割当てに関する事項及びその額
当社普通株式1株につき金60円
総額1,995,170,580円
- (3) 剰余金の配当が効力を生じる日
2019年11月22日

2. その他の剰余金の処分に関する事項

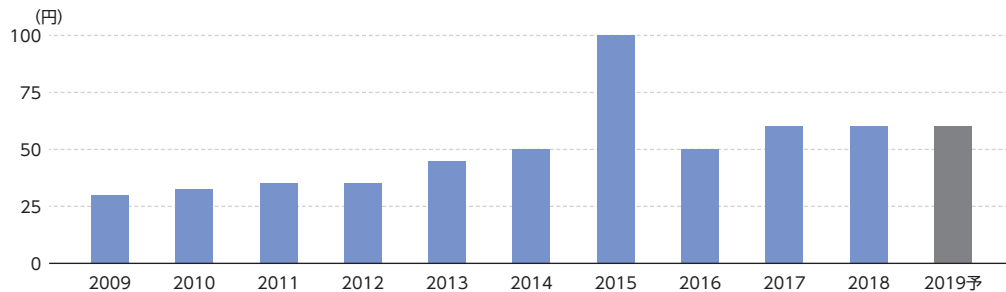
- (1) 減少する剰余金の項目及びその額
繰越利益剰余金 1,500,000,000円
- (2) 増加する剰余金の項目及びその額
別途積立金 1,500,000,000円

<株主還元の基本方針>

当社は、従来から株主の皆様への利益還元の充実を経営の重要課題のひとつとして位置づけ、配当性向を当社単体の純利益の5割程度とする方針を維持するとともに、安定的な配当金額を継続することを基本方針としており、利益還元を重視する方針を明確にしております。

なお、自己株式の取得については、市場環境等を踏まえ、機動的に行う方針としています。

1株当たり配当金の推移



2011年9月 1株→2株に株式分割
2015年の1株当たり配当金100円 (普通配当: 50円、記念配当: 50円)

第2号議案 取締役（監査等委員である取締役を除く。）6名選任の件

取締役（監査等委員である取締役を除きます。以下、本議案において同じです。）全員（6名）は、本総会終結の時をもって任期満了となります。

つきましては、改めて取締役6名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案に関しましては、監査等委員会から、各取締役候補者は、業務執行状況及び業績、取締役会での発言、これまでの経歴等より、当社の取締役として適任であるとの意見表明を受けております。

取締役候補者は次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地 位、担 当の状 況	所有する当社の株式数
1	さわのぼり いちろう 潭 登 一 郎 (1956年9月2日生)	1980年4月 当社入社 1986年10月 当社取締役 1987年10月 当社常務取締役 1991年9月 当社代表取締役副社長 1995年11月 当社代表取締役社長 2001年12月 当社代表取締役社長兼企画本部長 2003年11月 当社代表取締役社長 (現在に至る) [重要な兼職の状況] ナガイ白衣工業株式会社代表取締役社長	5,780,915株
<p>【取締役候補者とした理由】 潭登一郎氏は、1986年に当社取締役に就任以来、当社の業績の向上に貢献しており、1995年に代表取締役社長に就任以降は、当社の経営トップとして高い見識と豊富な経験をもとにリーダーシップを発揮し、その責任を十分に果たし、当社の企業価値向上に貢献していること、社内外問わず人望厚く申し分ないことから、引き続き取締役候補者といたしました。</p>			

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地 位、担 当の状 況及び 状況	所有する当 社の株式数
2	さいとう のぶひこ 齊 藤 信 彦 (1961年11月10日生)	1984年4月 株式会社クラレ入社 1992年5月 当社入社 当社新事業開発室長 1995年11月 当社取締役企画本部長 1999年9月 当社取締役企画本部長兼営業本部副本部 長 2001年12月 当社常務取締役営業本部長 2003年11月 当社常務取締役営業本部長兼企画本部長 2010年11月 当社常務取締役兼営業本部長 2013年9月 当社常務取締役CMO 2014年12月 当社常務取締役経営企画本部長 (現在に至る)	55,214株
<p>【取締役候補者とした理由】</p> <p>齊藤信彦氏は、繊維メーカー勤務の経験があり、マーケティング全般についての専門的な知識を有しており、当社入社後は新規事業の開発に貢献され、1995年に取締役就任後は、高度な専門性と高い見識のもと商品の企画・営業・経営企画を管掌するなど当社の企業価値向上に貢献していること、社内外問わず人望厚く申し分ないことから、引き続き取締役候補者いたしました。</p>			

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地 位、担 当の状 況	所有する当社の株式数
3	あさいかつじ 朝井克司 (1957年4月10日生)	1981年4月 蝶理株式会社入社	10,057株
		2008年12月 当社入社 当社業務部次長 2010年11月 当社取締役業務本部長 (現在に至る)	
<p>【取締役候補者とした理由】</p> <p>朝井克司氏は、繊維商社勤務の経験があり、2010年に取締役就任後は、国内・国外の仕入業務全般について豊富な経験と高い見識のもとに当社の企業価値の向上に貢献されていること、社内外問わず人望厚く申し分ないことから、引き続き取締役候補者いたしました。</p>			
4	やまもと やすよし 山本康義 (1957年12月23日生)	1981年4月 ユニチカ株式会社入社	10,157株
		1999年4月 ユニチカテキスタイル株式会社(現ユニチカトレーディング株式会社)分社により転籍 2009年10月 当社入社 当社経営企画室長 2010年2月 当社企画部次長 2010年11月 当社取締役企画本部長 (現在に至る)	
<p>【取締役候補者とした理由】</p> <p>山本康義氏は、繊維メーカー勤務の経験があり、2010年に取締役就任後は、新商品企画・品質管理全般について豊富な経験と高度な専門性を発揮され当社の企業価値向上に貢献されていること、社内外問わず人望厚く申し分ないことから、引き続き取締役候補者いたしました。</p>			

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地 位、担 当の状 況	所有する当社の株式数
5	しんたに きんや 新 谷 欣 哉 (1963年6月20日生)	1986年4月 広島トヨペット株式会社入社 1987年10月 当社入社 2002年9月 当社営業部次長兼営業第三課課長 2003年9月 当社営業部次長兼マーケティング室室長 2004年9月 当社営業部次長 2006年12月 当社営業部部長 2013年9月 当社営業本部長 2014年11月 当社取締役営業本部長 (現在に至る)	9,027株
	<p>【取締役候補者とした理由】</p> <p>新谷欣哉氏は、入社以来営業として大変優秀な成績を残しており市場を知悉していること、2014年に取締役就任後は、十分に能力を発揮し当社の企業価値向上に貢献されていること、社内外問わず人望厚く申し分ないことなどから、引き続き取締役候補者といたしました。</p>		
6	とくえ たけし 徳 江 健 (1967年2月26日生)	1989年4月 当社入社 2008年9月 当社総務部次長 2015年9月 当社管理本部部長 2016年11月 当社取締役管理本部長 (現在に至る)	15,799株
	<p>【取締役候補者とした理由】</p> <p>徳江健氏は、入社以来営業部、総務部において会社業務全般について豊富な経験と知識を有しており、2016年に取締役就任後は、その経験を活かして当社の企業価値向上に貢献されていること、社内外問わず人望厚く申し分ないことなどから、引き続き取締役候補者といたしました。</p>		

(注) 各取締役候補者と当社との間にはいずれも特別の利害関係はありません。

以上

(提供書面)

事業報告

(自 2018年9月1日
至 2019年8月31日)

1. 企業集団の現況に関する事項

(1) 事業の経過及び成果

当連結会計年度における国内経済は、企業業績や雇用・所得環境の改善などにより穏やかに回復しているものの、米国をはじめとする各国の貿易摩擦や中国経済の減速などにより、景気の先行きは不透明な状況で推移しております。

医療・介護業界におきましては、6年に一度の診療報酬・介護報酬の同時改定が2018年4月に実施され、社会保障費増加抑制の政府指針に基づき診療報酬は前回に引き続きマイナス改定となりましたが、診療報酬本体及び介護報酬がプラス改定されたことで市場は落ち着き感を取り戻し、ほぼ安定した市場環境にて推移したものと推察されます。

このような状況のもと、当社グループ(当社及び連結子会社)は、主力のヘルスケアウェアにおいて高付加価値商品は順調に推移したものの、下期の更新予定物件の一部に来期へのずれ込みが発生し、また患者ウェアも新規取引先の本格導入が来期となるなどの影響が大きく減収となりました。

当連結会計年度におきまして当社グループは、国内縫製工場(ソーイングセンター)の新設と役員退職慰労金制度の廃止を行いました。これら特殊要因により、当期の一過性費用として、工場新設に伴う減価償却費の増加や不動産取得税の発生、及び役員退職慰労金制度廃止に伴う功労金の発生がありました。

売上高総利益率は、新工場新設に伴う減価償却費の増加や、海外の人件費上昇による加工賃の値上げがあったものの、海外生産シフト効果や円高時に為替先物予約ができたことにより原価上昇を抑えられた結果、46.7%となりました。

販売費及び一般管理費は、当期の特殊要因である役員退職慰労金制度に伴う功労金81百万円が発生しており、前年同期比4.9%アップの2,922百万円となりました。

このような状況のもと、当連結会計年度の売上高につきましては16,785百万円(前連結会計年度比2.1%減)、営業利益は4,918百万円(同6.6%減)、経常利益は4,990百万円(同6.5%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は3,445百万円(同6.3%減)を計上いたしました。

また、当社個別の業績につきましては、売上高は16,777百万円(前期比2.1%減)、営業利益は4,793百万円(同5.2%減)、経常利益は4,941百万円(同5.2%減)、当期純利益は3,436百万円(同4.9%減)を計上いたしました。

(注) 当社グループは、メディカルウェア等の製造・販売の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載は省略しております。

(2) 設備投資等の状況

当社グループが当連結会計年度に実施した設備投資は総額225百万円（無形固定資産を含む）で、その主なものは生産設備等への投資であります。

(3) 資金調達の状況

該当する事項はありません。

(4) 対処すべき課題

国内経済は企業業績や雇用・所得環境の改善などにより引き続き穏やかに回復傾向で推移するものと予想されますが、米国をはじめとする各国の貿易摩擦や中国経済の減速などにより、景気の先行きは不透明な状況にあります。

医療・介護業界におきましては、薬価基準の引下げ方針や10月からの消費税増税に対応した診療報酬及び介護報酬への反映が経営実態にどのような影響を与えるか不透明感も強く、業界は混沌とするものと思われれます。

当社グループといたしましては、このような状況下ではあるものの、ヘルスケアウェアにおいて前期からずれ込んだ更新物件も含め確実に受注に結び付けるべく顧客ニーズに適合したここ数年の高付加価値戦略の強化を推進するとともに患者ウェアの新規取引による増収を加え、過去最高の売上高達成を目指してまいります。

生産に関しましては、国内の人手不足に対応すべく賃上げを実施し優良人材確保を行うことで、QR体制の強化と小ロット多品種生産への対応力の強化を図ってまいります。また引き続き海外への生産シフトの推進及び海外生産拠点の生産性の向上と品質の安定化を図ってまいります。

資本政策といたしましては、当社グループの強固な財務体質の強みを活かし、株主価値向上のため、配当性向を当社単体の純利益の5割程度とする方針を維持するとともに、必要に応じて自己株式の取得等を積極的に実施してまいります。

今後とも、企業価値の向上のための成長機会への再投資も考慮しつつ、株主への利益還元を努めてまいります。

(5) 財産及び損益の状況の推移

区 分	第67期 (自 2015年9月1日 至 2016年8月31日)	第68期 (自 2016年9月1日 至 2017年8月31日)	第69期 (自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)	第70期 (当連結会計年度) (自 2018年9月1日 至 2019年8月31日)
売上高(百万円)	16,537	17,017	17,144	16,785
経常利益(百万円)	4,937	5,340	5,338	4,990
親会社株主に帰属 する当期純利益(百万円)	3,262	3,673	3,675	3,445
1株当たり当期純利益(円)	98.12	110.49	110.57	103.61
純資産(百万円)	34,501	36,545	38,345	39,721
1株当たり純資産額(円)	1,037.76	1,099.23	1,153.38	1,194.54
総資産(百万円)	38,857	40,951	42,643	44,281

(注) 1株当たり当期純利益は、自己株式控除後の期中平均発行済株式数により、1株当たり純資産額は、自己株式控除後の期末発行済株式数によりそれぞれ算出しております。

(6) 重要な親会社及び子会社の状況

- ① 親会社の状況
該当する事項はありません。
- ② 重要な子会社の状況

会 社 名	資本金	当社の出資比率	主要な事業内容
ナガイ白衣工業株式会社	千円 50,000	% 100.0	白衣類の縫製加工 白衣類の縫製指図 品質管理・技術指導 製品の委託出荷

(7) 主要な事業内容 (2019年8月31日現在)

当社グループは、メディカルウェア等の製造・販売をしており、主な商品は次のとおりであります。

- ① メディカルウェア
- ② シューズ

(8) 主要な営業所及び工場 (2019年8月31日現在)

会社名	主要拠点
ナガイレーベン株式会社	(本社) 東京都千代田区鍛冶町二丁目1番10号 (支店) 札幌市東区、仙台市宮城野区、名古屋市東区、大阪市東成区、広島市西区、福岡市中央区、中華民国:台北市 (営業所) 香川県高松市 (物流センター) 秋田県大仙市神宮寺、広島県東広島市
ナガイ白衣工業株式会社	(本社) 秋田県大仙市神宮寺 (カッティングセンター) 秋田県大仙市神宮寺 (工場) 秋田県大仙市神宮寺、秋田県大仙市南外、秋田県仙北郡美郷町

(注) 2019年9月1日から高松営業所を高松支店に名称変更いたしました。

(9) 従業員の状況 (2019年8月31日現在)

① 企業集団の従業員数

区分	従業員数	前連結会計年度末比増減
男性	176名	3名増
女性	335名	2名増
合計	511名	5名増

(注) 従業員数には契約社員、臨時従業員及び海外支店の現地社員は含んでおりません。

② 当社の従業員の状況

区分	従業員数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
男性	86名	2名増	42.8歳	15.9年
女性	34名	1名増	35.5歳	10.4年
合計又は平均	120名	3名増	40.7歳	14.3年

(注) 従業員数には契約社員、臨時従業員及び海外支店の現地社員は含んでおりません。

(10) 主要な借入先 (2019年8月31日現在)

該当する事項はありません。

(11) その他企業集団の現況に関する重要な事項

該当する事項はありません。

2. 会社の株式に関する事項（2019年8月31日現在）

- (1) 発行可能株式総数 100,000,000株
 (2) 発行済株式の総数（自己株式4,983,157株を除く） 33,252,843株
 (3) 株主数 3,214名
 (4) 大株主

株 主 名	持 株 数	持株比率
澤 登 一 郎	5,780,915	17.4
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) REFIDELITY FUNDS	2,241,627	6.7
日 本 マ ス タ ー ト ラ ス ト 信 託 銀 行 株 式 会 社 (信 託 口)	1,896,200	5.7
J P M O R G A N C H A S E B A N K 3 8 0 0 5 5	1,726,834	5.2
有 限 会 社 登 龍	1,455,300	4.4
澤 登 辰 郎	1,050,200	3.2
日 本 ト ラ ス テ ィ ・ サ ー ビ ス 信 託 銀 行 株 式 会 社 (信 託 口)	925,800	2.8
R B C I S T 1 5 P C T N O N L E N D I N G A C C O U N T - C L I E N T A C C O U N T	893,142	2.7
澤 登 春 江	623,600	1.9
水 口 洋 子	592,400	1.8

- (注) 1. 当社は、自己株式を4,983,157株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
 2. 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

3. 会社の新株予約権等に関する事項

該当する事項はありません。

4. 会社役員に関する事項

(1) 取締役の氏名等(2019年8月31日現在)

氏名	地位及び担当	重要な兼職の状況
澤 登 一 郎	取締役社長(代表取締役)	ナガイ白衣工業株式会社代表取締役社長
斉 藤 信 彦	常務取締役(経営企画本部長)	
朝 井 克 司	取締役(業務本部長)	
山 本 康 義	取締役(企画本部長)	
新 谷 欣 哉	取締役(営業本部長)	
徳 江 健	取締役(管理本部長)	
荻 野 和 孝	取締役(監査等委員・常勤)	
城 見 浩 一	取締役(監査等委員)	城見税務会計事務所所長 公認会計士 税理士 小津産業株式会社社外監査役 株式会社スーパーアルプス社外監査役
三 嶋 浩 太	取締役(監査等委員)	合同会社m o i m o i 代表社員 合同会社ツバルの森代表社員

- (注) 1. 取締役(監査等委員)城見浩一氏及び三嶋浩太氏は、社外取締役であります。
2. 取締役(監査等委員)城見浩一氏は、公認会計士及び税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。
3. 情報収集の充実を図り、内部監査部門等との十分な連携を通じて、監査の実効性を高め、監査・監督機能を強化するために荻野和孝氏を常勤の監査等委員に選定しております。
4. 当社は、取締役(監査等委員)城見浩一氏及び取締役(監査等委員)三嶋浩太氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

(2) 責任限定契約の内容の概要

当社と取締役(監査等委員)全員との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。

当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が規定する額となります。なお、当該責任限定が認められるのは、当該取締役(監査等委員)が責任の原因となった職務の遂行について善意かつ重大な過失がないときに限られます。

(3) 当事業年度に係る取締役の報酬等の総額

区 分	支 給 人 員	支 給 額 (千 円)
取締役(監査等委員を除く)	6名	193,680
取締役(監査等委員) (うち社外取締役)	3名 (2名)	20,438 (7,200)
合 計	9名	214,118

- (注) 1. 取締役(監査等委員を除く)の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与相当額(賞与を含む)55,266千円は含まれておりません。
2. 取締役(監査等委員を除く)の報酬限度額は、2016年11月25日開催の第67期定時株主総会において年額200,000千円以内(ただし、使用人分給与は含まない。)と決議いただいております。
3. 取締役(監査等委員を除く)に対する譲渡制限付株式報酬制度は、2018年11月22日開催の第69期定時株主総会において決議いただいております。
4. 取締役(監査等委員)の報酬限度額は、2016年11月25日開催の第67期定時株主総会において年額40,000千円以内と決議いただいております。
5. 上記支給額には、役員退職慰労引当金の繰入額82,791千円(取締役分(監査等委員を除く)82,791千円)及び譲渡制限付株式報酬12,629千円(取締役分(監査等委員を除く)12,629千円)を含んでおります。

(4) 社外役員に関する事項

① 重要な兼職先と当社との関係

取締役(監査等委員)城見浩一氏は、城見税務会計事務所の所長であります。また、小津産業株式会社及び株式会社スーパーアルプスの社外監査役であります。城見税務会計事務所、小津産業株式会社及び株式会社スーパーアルプスと当社との間にはいずれも特別の関係はありません。

取締役(監査等委員)三嶋浩太氏は合同会社m o i m o i及び合同会社ツバルの森の代表社員であります。合同会社m o i m o i及び合同会社ツバルの森と当社との間には特別の関係はありません。

② 当事業年度における主な活動状況

	活 動 状 況
取締役 (監査等委員) 城 見 浩 一	当事業年度において開催された取締役会15回のうち15回出席し、主に公認会計士及び税理士としての専門的見地から、取締役会において、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行っております。 また、当事業年度において開催された監査等委員会15回のうち15回出席し、主に当社の経理システム並びに内部監査について適宜、必要な発言を行っております。
取締役 (監査等委員) 三 嶋 浩 太	当事業年度において開催された取締役会15回のうち15回出席し、企業経営についての豊富な経験と幅広い見識から、取締役会において、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行っております。 また、当事業年度において開催された監査等委員会15回のうち15回出席し、主に当社の経営環境並びに内部監査について適宜、必要な発言を行っております。

- (注) 上記の取締役会の開催回数のほか、会社法第370条及び当社定款第26条の規定に基づき、取締役会決議があったものとみなす書面決議が4回ありました。

5. 会計監査人に関する事項

(1) 会計監査人の名称

E Y新日本有限責任監査法人

(2) 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

① 当事業年度に係る会計監査人としての報酬等の額

26,000千円

② 当社及び当社子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額

26,000千円

(注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できないため、上記①の金額にはこれらの合計額を記載しております。

2. 監査等委員会は、公益社団法人日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、会計監査人の監査計画、監査の実施状況及び報酬の見積りの算出根拠等を確認し、検討した結果、会計監査人の報酬等について会社法第399条第1項の同意の判断を行っております。

(3) 非監査業務の内容

該当する事項はありません。

(4) 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査等委員会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査等委員全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査等委員会が選定した監査等委員は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨及びその理由を報告いたします。

6. 業務の適正を確保するための体制及び運用状況の概要

(1) 業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要

内部統制システムの基本方針につきましては、下記のとおり定めております。

- ① 当社の取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

役職員が法令及び定款を遵守した行動をとるための行動規範として、企業倫理規程を制定し、コンプライアンス体制に係る規程を整備する。また、その徹底を図るため、総務部が、コンプライアンスの取り組みを横断的に統括することとし、同部を中心に教育等を行う。監査等委員会は、取締役の職務の執行が法令及び定款に適合していることを監査し、定期的に取り締役に報告するものとする。内部監査部門は、使用人の職務の執行が法令及び定款に適合していることを監査し、代表取締役社長及び監査等委員会に報告するものとする。法令上疑義のある行為等について従業員が直接情報提供を行う手段としてコンプライアンス・ホットラインを設置・運営する。

反社会的勢力とは取引関係を含めて一切の関係を遮断する。反社会的勢力の不当要求に対しては、警察等関連機関及び顧問弁護士と緊密に連携し、毅然とした態度で対応する。

- ② 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

文書管理規程に従い、取締役の職務の執行に係る情報を文書又は電磁的媒体（以下、文書等という）に記録し、保存する。取締役は、文書管理規程により、常時、これらの文書等を閲覧できるものとする。

- ③ 当社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

損失の危険の管理に関する事項については、それぞれの担当部署にて、製造・物流・情報管理等の安全に関する問題、コンプライアンスに関する問題、その他当社が抱えるリスクの管理について、必要な見直し・対応を検討する。組織横断的リスク状況の監視及び全社的対応は総務部が行うものとする。新たに生じたリスクについては取締役会において速やかに対応責任者となる取締役を定める。

- ④ 当社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制の基礎として、月1回定例取締役会を開催し、適宜臨時取締役会を開催する。

また、会社法第399条の13第6項の規定により、取締役会の決議によって重要な業務執行（同条第5項各号に掲げる事項を除く。）の決定の全部又は一部を取締役に委任することができる旨の定款規定に基づき、取締役会決議により委任された重要な業務執行の一部又は全部について、毎週月曜日に開催される経営会議において議論の上、決議する。

取締役会及び経営会議の決定に基づく業務執行については、業務分掌規程及び職務権限規程において、それぞれの責任者及びその責任並びに執行手続の詳細について定める。

中期経営計画及び年度事業計画を立案し、全社的な目標を設定するものとし、会議等を通じて全社に周知徹底する。

⑤ 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社取締役と子会社ナガイ白衣工業株式会社取締役との間の連携を図るため、定期的に当社グループの役員による会議を開催し、子会社の取締役の職務の執行に係る事項の報告を受け、当社グループの経営方針に従って子会社の取締役の職務の執行が効率的に行われる体制を構築する。

関係会社管理規程に従い、子会社の事業部門に関して責任を負う子会社の取締役を任命し、子会社の企業倫理規程に基づく法令遵守体制、リスク管理体制を構築する権限と責任を与える。本社管理本部は子会社ナガイ白衣工業株式会社総務部と連携し、これらを横断的に推進し、管理する。また、法令上疑義のある行為等について子会社の従業員が直接情報提供を行う手段としてコンプライアンス・ホットラインを設置・運営する。

⑥ 当社の監査等委員会の職務を補助すべき使用人に関する事項、当該使用人の当社の他の取締役（監査等委員である取締役を除く。）からの独立性に関する事項並びに当社の監査等委員会の当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

当社は、監査等委員会がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合、当該使用人に対し監査等委員会はその監査業務に必要な事項を指示することができるものとし、監査等委員会より指示を受けた使用人は当該指示に係る事項に関して、取締役（監査等委員である取締役を除く。）及び直属の上司等の指揮命令を受けないものとする。

当該指示を受けた使用人の異動等については、監査等委員会の意見を聞くものとする。

⑦ 当社の監査等委員会への報告に関する体制及び当該報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

当社並びに当社グループの取締役及び使用人は、監査等委員会に対して、法定の事項に加え、当社及び当社グループに重大な影響を及ぼす事項、内部監査の実施状況を速やかに報告する。

当社の監査等委員会は、子会社の取締役、監査役並びに使用人その他これらの者から報告を受けた者に対して、監査等委員会の職務の執行に関する情報について報告を求めることができる。

当社グループは、監査等委員会に報告した者に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いはしないものとする。

⑧ 当社の監査等委員の職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に関する方針に関する事項

監査等委員が、その職務の執行について生ずる費用の前払い等の請求をしたときは、その費用が監査等委員会の職務の執行に必要なでないと明らかに認められる場合を除き、速やかに処理する。

- ⑨ その他当社の監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制
監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制の基礎として、月
1 回定例監査等委員会を開催し、適宜臨時監査等委員会を開催する。

監査等委員会と代表取締役社長との間の定期的な意見交換の機会を設定し、認識の共有を図る。

また、監査等委員会は、会計監査人から定期的に会計監査内容についての報告を受けるとともに、意見交換を行うことで会計監査人との連携を図る。

監査等委員は、取締役会のほか、経営会議その他の重要な会議に出席することができる。また、監査等委員は、議事録等の関連資料を原則自由に閲覧できる。

(2) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

① 重要な会議の開催状況

当事業年度における重要な会議の開催状況は次のとおりであります。

取締役会は15回開催（開催回数のほか、会社法第370条及び当社定款第26条の規定に基づき取締役会のあったものとみなされる書面決議を4回）されました。

監査等委員会は15回開催され、監査等委員全員はそのすべてに出席いたしました。

業務執行取締役及び常勤監査等委員である取締役から構成される経営会議は原則毎月曜日に開催され、経営状況や課題等の報告のほか、取締役会より委任を受けた重要な事項に関する業務執行を決定いたしました。

当社グループ内の連携強化のために、当社及び子会社ナガイ白衣工業株式会社の業務執行取締役から構成される合同会議を12回開催いたしました。

② 当事業年度における主な取り組み

(a) コンプライアンス

社内研修において、代表取締役社長が自ら従業員に向けて企業理念及び経営方針を周知いたしました。

コンプライアンス意識の向上と不正行為等の防止を図るため、企業倫理規程及び内部通報制度運用規程の周知を継続するとともに、従業員に対し職場におけるハラスメント防止に関する注意喚起を実施いたしました。

反社会勢力排除に向けた対応については、注意喚起と徹底を継続いたしました。

(b) グループ全社のリスクマネジメント

自然災害対策として、全社社員を対象に災害時安否確認訓練を実施いたしました。子会社ナガイ白衣工業株式会社においては、事業所ごとに避難経路の確認の実施及び全社社員を対象とした災害緊急時連絡網を作成しております。

当社の情報セキュリティ対策としては、外部からのウイルスや攻撃等に対するセキュリティリスクに関しての監視を日々行っており、万全の体制を整えております。特に情報漏洩に関しては、各クライアント及びサーバーに対して、ファイル操作の履歴を常に取りよう設定しており、万が一流出した場合においても、その流出元が特定できるようにしております。また、従業員を対象にサイバーセキュリティに関する社内研修を実施いたしました。

サーバールームに関しては、特定の人物のみがセキュリティカードを使用しての入室が可能となっております。

防災対策として、無停電電源装置を用意し耐震設備の上にサーバーを設置しており、大震災にも備えております。また火事や電源喪失など、事業運用に著しい障害が発生した場合においても、別拠点に設置してある予備サーバーへ切り替え、事業運用に支障が無い体制を整えております。

子会社ナガイ白衣工業株式会社においては、メールのセキュリティ対策は外部委託し、各クライアントのウイルス対策については専任担当者が管理しております。防災対策として、無停電電源装置を用意し、データは別拠点にバックアップし、生産工場稼働に支障が無いように復旧体制を整えております。

(c) 財務報告に係わる内部統制

財務報告に係わる内部統制は、年間スケジュールに基づき、内部統制評価を実施いたしました。

(d) 内部監査体制

内部監査計画に基づき、当社及びグループ子会社の内部監査を実施いたしました。

7. 会社の支配に関する基本方針

該当する事項はありません。

連結貸借対照表

(2019年8月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
[資産の部]		[負債の部]	
流動資産	35,054,285	流動負債	3,494,220
現金及び預金	25,157,761	支払手形及び買掛金	1,452,437
受取手形及び売掛金	3,547,834	未払法人税等	994,666
電子記録債権	1,792,308	賞与引当金	86,207
たな卸資産	4,479,844	その他	960,909
短期貸付金	2,844	固定負債	1,065,166
その他	74,767	役員退職慰労引当金	23,260
貸倒引当金	△1,076	退職給付に係る負債	661,834
固定資産	9,226,842	その他	380,072
有形固定資産	7,767,384	負債合計	4,559,386
建物及び構築物	2,816,540	[純資産の部]	
機械装置及び運搬具	361,583	株主資本	39,518,768
土地	4,438,249	資本金	1,925,273
建設仮勘定	8,803	資本剰余金	2,368,673
その他	142,207	利益剰余金	40,120,937
無形固定資産	32,541	自己株式	△4,896,115
投資その他の資産	1,426,916	その他の包括利益累計額	202,972
投資有価証券	684,287	その他有価証券評価差額金	276,505
長期貸付金	5,672	繰延ヘッジ損益	3,722
繰延税金資産	558,778	退職給付に係る調整累計額	△77,255
その他	181,888	純資産合計	39,721,741
貸倒引当金	△3,710	負債・純資産合計	44,281,128
資産合計	44,281,128		

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(自 2018年9月1日)
(至 2019年8月31日)

(単位：千円)

科 目	金	額
売上高		16,785,667
売上原価		8,944,746
売上総利益		7,840,920
販売費及び一般管理費		2,922,780
営業利益		4,918,139
営業外収益		
受取利息及び配当金	14,923	
受取賃貸料	84,395	
雑収入	12,383	111,702
営業外費用		
固定資産賃貸費用	32,940	
為替差損	5,713	
雑損失	261	38,914
経常利益		4,990,927
特別利益		
固定資産売却益	1,510	
投資有価証券売却益	9,936	11,446
特別損失		
固定資産除売却損	4,405	
減損損失	9,590	13,995
税金等調整前当期純利益		4,988,378
法人税、住民税及び事業税	1,553,175	
法人税等調整額	△9,949	1,543,225
当期純利益		3,445,153
親会社株主に帰属する当期純利益		3,445,153

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書

（自 2018年9月1日）
（至 2019年8月31日）

（単位：千円）

	株 主 資 本				
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計
2018年9月1日 残高	1,925,273	2,358,190	38,670,570	△4,902,274	38,051,760
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			△1,994,786		△1,994,786
親会社株主に帰属する当期純利益			3,445,153		3,445,153
自己株式の取得				△197	△197
自己株式の処分		10,482		6,355	16,838
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）					
連結会計年度中の変動額合計	-	10,482	1,450,366	6,158	1,467,007
2019年8月31日 残高	1,925,273	2,368,673	40,120,937	△4,896,115	39,518,768

	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額				純 資 産 合 計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	退職給付に係る 調整累計額	そ の 他 の 利 益 累 計 額 合 計	
2018年9月1日 残高	341,551	15,310	△62,985	293,876	38,345,637
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当					△1,994,786
親会社株主に帰属する当期純利益					3,445,153
自己株式の取得					△197
自己株式の処分					16,838
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）	△65,045	△11,587	△14,270	△90,904	△90,904
連結会計年度中の変動額合計	△65,045	△11,587	△14,270	△90,904	1,376,103
2019年8月31日 残高	276,505	3,722	△77,255	202,972	39,721,741

（注）記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

貸借対照表

(2019年8月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
[資産の部]		[負債の部]	
流動資産	31,852,207	流動負債	3,439,539
現金及び預金	22,812,840	支払手形	783,326
受取手形	1,250,362	買掛金	800,437
電子記録債権	1,792,308	未払金	443,882
売掛金	2,297,337	未払費用	32,673
商蔵品	3,600,280	未払法人税等	976,150
貯蔵品	27,867	未払消費税等	304,662
短期貸付金	2,844	賞与引当金	57,699
その他の貸倒引当金	69,441	その他の	40,707
	△1,076	固定負債	538,125
固定資産	8,928,232	退職給付引当金	158,053
有形固定資産	7,618,984	その他の	380,072
建物	2,747,727	負債合計	3,977,664
構築物	66,515		
機械及び装置	195,260	[純資産の部]	
車両運搬具	28,644	株主資本	36,524,288
工具、器具及び備品	133,783	資本金	1,925,273
土地	4,438,249	資本剰余金	2,648,017
建設仮勘定	8,803	資本準備金	2,202,171
無形固定資産	24,264	その他資本剰余金	445,845
電話加入権	4,473	利益剰余金	36,847,113
施設利用権	474	利益準備金	410,000
ソフトウェア	19,316	その他利益剰余金	36,437,113
投資その他の資産	1,284,983	固定資産圧縮積立金	31,364
投資有価証券	684,140	別途積立金	31,700,000
関係会社株式	50,000	繰越利益剰余金	4,705,749
長期貸付金	5,672	自己株式	△4,896,115
破産更生債権等	5,619	評価・換算差額等	278,485
長期前払費用	10,600	その他有価証券評価差額金	276,505
繰延税金資産	367,457	繰延ヘッジ損益	1,979
その他の貸倒引当金	165,203	純資産合計	36,802,774
	△3,710	負債・純資産合計	40,780,439
資産合計	40,780,439		

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(自 2018年9月1日)
(至 2019年8月31日)

(単位：千円)

科 目	金 額	
売上高		16,777,589
売上原価		9,082,842
売上総利益		7,694,747
販売費及び一般管理費		2,901,152
営業利益		4,793,594
営業外収益		
受取利息及び配当金	79,740	
受取賃貸料	189,311	
雑収入	2,656	271,708
営業外費用		
固定資産賃貸費用	116,049	
為替差損	5,684	
雑損失	1,984	123,718
経常利益		4,941,584
特別利益		
固定資産売却益	566	
投資有価証券売却益	9,936	10,502
特別損失		
固定資産除売却損	3,824	
減損損失	9,590	13,415
税引前当期純利益		4,938,671
法人税、住民税及び事業税	1,522,655	
法人税等調整額	△20,890	1,501,765
当期純利益		3,436,906

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

招集ご通知

株主総会参考書類

事業報告

計算書類

監査報告

株主資本等変動計算書

(自 2018年9月1日)
(至 2019年8月31日)

(単位：千円)

	株 主 資 本								
	資 本 金	資 本 剰 余 金			利 益 剰 余 金	剰 余 金			
		資本準備金	そ の 他 資本剰余金	資本剰余金 合 計		固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰 越 利 益 剰 余 金	利益剰余金 合 計
2018年9月1日 高 残	1,925,273	2,202,171	435,362	2,637,534	410,000	33,213	30,200,000	4,761,780	35,404,994
事 業 年 度 中 の 変 動 額									
剰 余 金 の 配 当								△1,994,786	△1,994,786
固 定 資 産 圧 縮 積 立 金 の 取 崩						△1,849		1,849	-
別 途 積 立 金 の 積 立							1,500,000	△1,500,000	-
当 期 純 利 益								3,436,906	3,436,906
自 己 株 式 の 取 得									
自 己 株 式 の 処 分			10,482	10,482					
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額 (純額)									
事 業 年 度 中 の 変 動 額 合 計	-	-	10,482	10,482	-	△1,849	1,500,000	△56,031	1,442,119
2019年8月31日 高 残	1,925,273	2,202,171	445,845	2,648,017	410,000	31,364	31,700,000	4,705,749	36,847,113

	株 主 資 本		評 価 ・ 換 算 差 額 等			純 資 産 合 計
	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	
2018年9月1日 高 残	△4,902,274	35,065,528	341,551	5,161	346,713	35,412,242
事 業 年 度 中 の 変 動 額						
剰 余 金 の 配 当		△1,994,786				△1,994,786
固 定 資 産 圧 縮 積 立 金 の 取 崩		-				-
別 途 積 立 金 の 積 立		-				-
当 期 純 利 益		3,436,906				3,436,906
自 己 株 式 の 取 得	△197	△197				△197
自 己 株 式 の 処 分	6,355	16,838				16,838
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額 (純額)			△65,045	△3,182	△68,228	△68,228
事 業 年 度 中 の 変 動 額 合 計	6,158	1,458,760	△65,045	△3,182	△68,228	1,390,532
2019年8月31日 高 残	△4,896,115	36,524,288	276,505	1,979	278,485	36,802,774

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

独立監査人の監査報告書

2019年10月11日

ナガイレーベン株式会社

取締役会 御中

E Y新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 中 村 裕 輔 ㊞
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 澤 部 直 彦 ㊞
業務執行社員

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、ナガイレーベン株式会社の2018年9月1日から2019年8月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ナガイレーベン株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

独立監査人の監査報告書

2019年10月11日

ナガイレーベン株式会社

取締役会 御中

E Y新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 中 村 裕 輔 ㊞
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 澤 部 直 彦 ㊞
業務執行社員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、ナガイレーベン株式会社の2018年9月1日から2019年8月31日までの第70期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

監 査 報 告 書

当監査等委員会は、2018年9月1日から2019年8月31日までの第70期事業年度における取締役の職務の執行について監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

監査等委員会は、会社法第399条の13第1項第1号ロ及びハに掲げる事項に関する取締役会決議の内容並びに当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明するとともに、下記の方法で監査を実施しました。

- ① 監査等委員会が定めた監査等委員会監査等基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、会社の内部統制部門と連携の上、重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行に関する事項の報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査しました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
- ② 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（2005年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人 E Y 新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人 E Y 新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2019年10月18日

ナガイレーベン株式会社 監査等委員会

監査等委員（常勤） 荻野和孝 ㊟

監査等委員 城見浩一 ㊟

監査等委員 三嶋浩太 ㊟

(注) 監査等委員城見浩一及び三嶋浩太は、会社法第2条第15号及び第331条第6項に規定する社外取締役であります。

以上

<ご参考1>

当社の特徴

創業100年

医療白衣メーカー専業

優位なポジションを確立

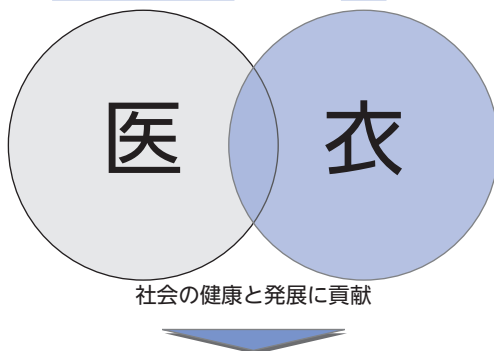
- ・国内シェア60%超のリーディングカンパニー
- ・年間600万着以上を供給
- ・企画から製造、販売までを一貫して行う
- ・数千種類にも及ぶ豊富なアイテム数、オーダーメイド対応など、競争力のある商品

事業領域

「医療」と「衣料」を繋ぐリーディングカンパニー

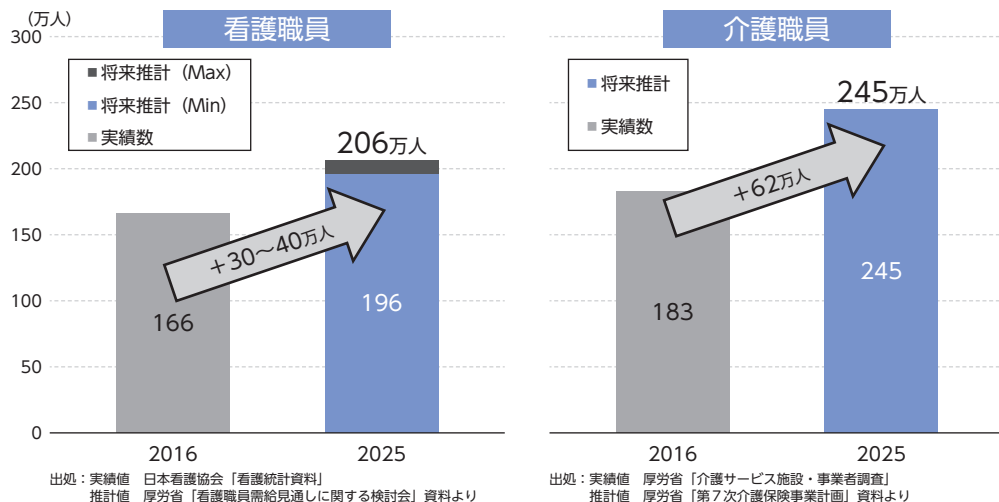
医療・ヘルスケア

衣料

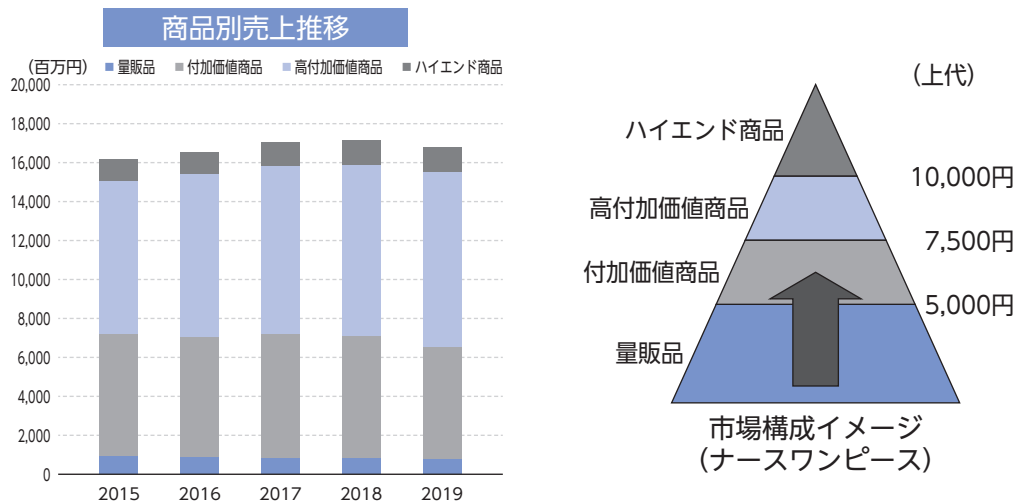


- ・ニッチな市場で確固たる地位を確立
- ・医療制度や保険点数に直接的な影響を受けない分野でのビジネス展開
- ・機能性と感性に訴求したファッショナブルな衣料を提供することにより高付加価値を創出

市場環境（看護・介護職員の将来需要推計）



高付加価値戦略

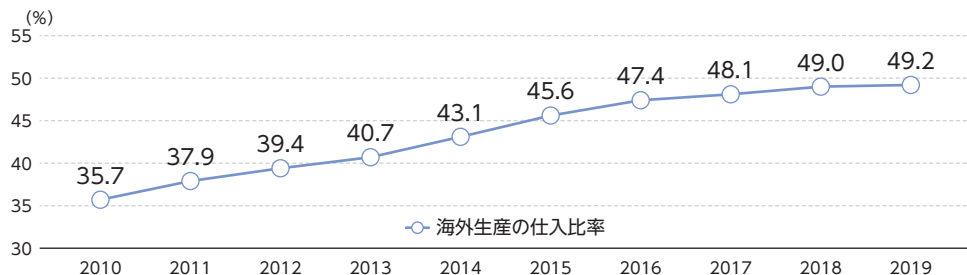


収益力安定に向けた戦略

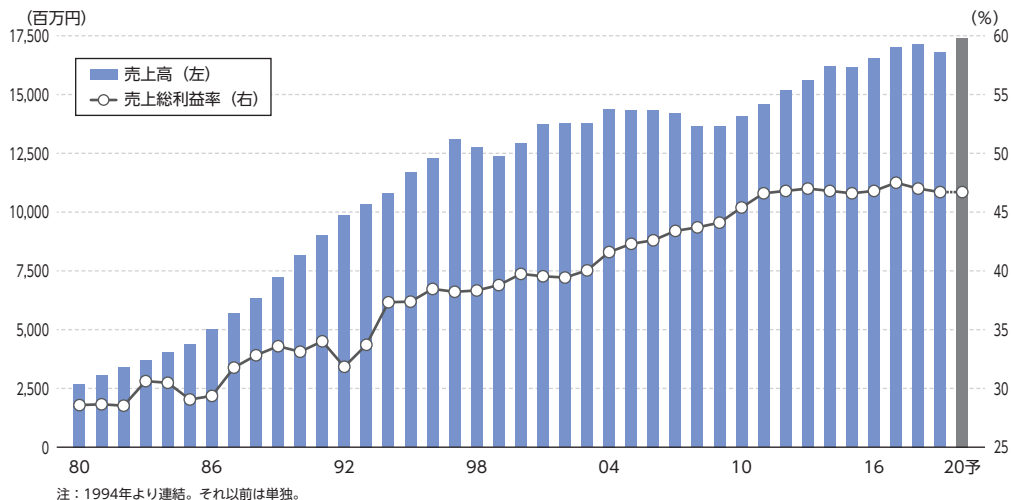
海外生産拠点及び海外シフト化

- 中国
- ベトナム
- インドネシア

生産の海外シフト化



売上高・総利益率の推移



株主還元の基本方針

株主重視の姿勢

- ～積極的なディスクロージャーによる透明性向上
- ～投資家との双方向コミュニケーション
- ～高配当による株主還元

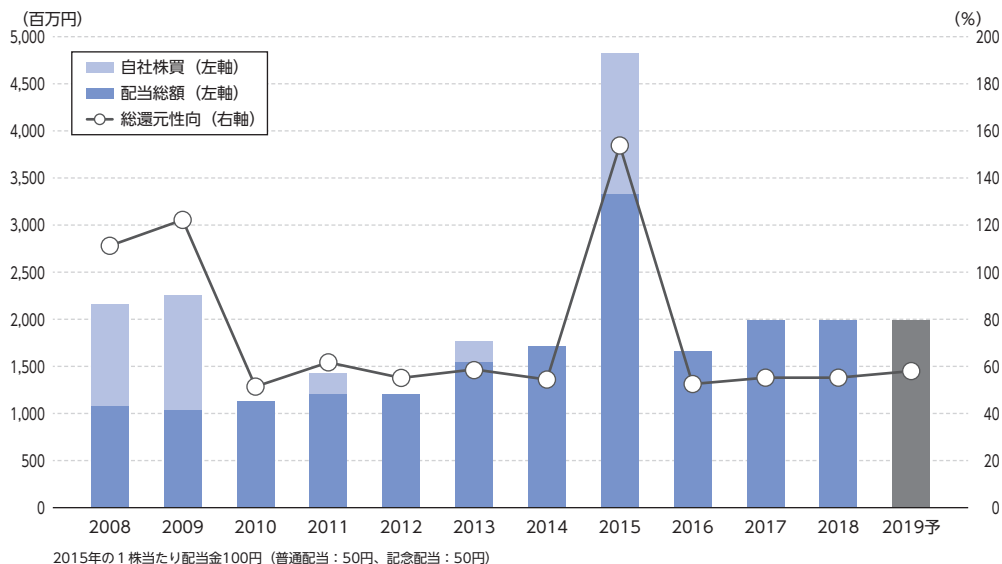
配当方針

⇒安定配当継続、配当性向（単体）50%を基本方針にする

自己株式の取得

⇒市場環境等を踏まえ、機動的に実施

株主還元実績



<ご参考2>

CSR/ESGの取り組み

社会的責任：豊かな社会の実現とその持続に貢献

新たな取り組み

お客様 ナースのためのビューティー講座

医療現場のナースにふさわしいメイクアップ・立ち居振る舞い等を学べる実践講座。資生堂とのコラボレーション。

地域貢献 歴史白衣の貸出し

歴史的な白衣のアーカイブを構築し、医療機関の催事等に無料貸し出し。

社会貢献 「南三陸 復興桜植樹」をサポート

3.11の津波到達地点に桜を植える活動「海の見える命の森」に被災地・南三陸町の有志らと協力。

女性活躍 女性主役産業をサポート

当社の商品の多くは病院・介護の現場で働く女性向けであり、また当社の生産現場では多くの女性スタッフが縫製作業に関わっています。当社の事業活動が、多様なライフイベントをもつ女性が活躍できる場を創出し、働く女性への支援につながっています。

お客様 ナースのための憩いの場 「ITONA」ギャラリーの開設

ナースへの「ありがとう」の気持ちを形にするため、日本で初めてのナースのための心のコミュニケーションスペースを開設しています。

地域貢献 メディカルキッズプロジェクト ミッフィー病院訪問

ドクターやナースに模した、子ども用白衣の病院貸出しや、ミッフィー着ぐるみの病院訪問を実施しています。

地域貢献 生産拠点を通じた地域貢献

現地雇用の創出活動、能力開発など、地域社会の発展に貢献しています。

- ・国内生産：1969年～ 秋田県
- ・海外生産：1989年～ 中国・インドネシア・ベトナム

環境 環境への取り組み

- ・2005年に「ISO14001の認証」を取得。原材料の裁断クズを再利用したルーフ材加工などの取り組みを実施。
- ・病院の手術現場向けにリユース商品「コンベルバック」を開発・販売。従来のディスプレイからリユースに転換でき、病院内での医療廃棄物削減を可能にしました。

社会貢献

- ・ナースのための詩集を定期発行し、病院や看護師に無料贈呈
- ・障害者雇用支援：障害者の積極的な雇用・促進に貢献した優良事業所として子会社ナガイ白衣工業が選ばれ、厚生労働大臣から表彰
- ・秋田県仙北郡美郷町産業大使に就任
- ・災害支援：SARSやインドネシアの大地震、阪神淡路大震災、東日本大地震、熊本地震などの災害発生時に、看護協会や赤十字を通じた寄付や白衣の提供、車椅子の寄贈などを実施
- ・国連の食糧支援機関「国連WFP」を支援

<ご参考3>

SDGsに向けた考え方

2015年、国連総会において貧困や不平等、不公正の撲滅、気候変動への対応など2030年までに達成すべき目標として「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択されました。

新興国だけではなく先進国などあらゆる国と地域が、2016年～2030年の15年間で達成するために掲げた国際目標として、持続可能な世界を実現するための17のゴール（大きな目標）と、それらを達成するための具体的な169のターゲットから構成されています。

当社は、「ナガイズム」の行動指針のもと、「人」「企業利益」「社会貢献」が、バランスよく熟成してこそ、社会に求められる企業集団になると考えており、世界が直面するさまざまな課題と真摯に向き合い、事業を通じた社会課題の解決を図ることで、持続可能な社会の実現を目指していきます。

“いのちの力になりたい”

- ・衣を通じて、医療の現場をサポート
- ・医療の現場が求める特別な機能性、感性の実現



環境

- ・病院向けに環境配慮商品
「コンベルパック」開発・販売
- ・環境を配慮した業務体制
ISO14001取得

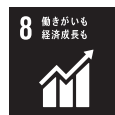


社会への還元

- ・ナガイズムの精神にもとづき、事業で得られた利益をさまざまなステークホルダーに還元



企業市民としての社会的責任

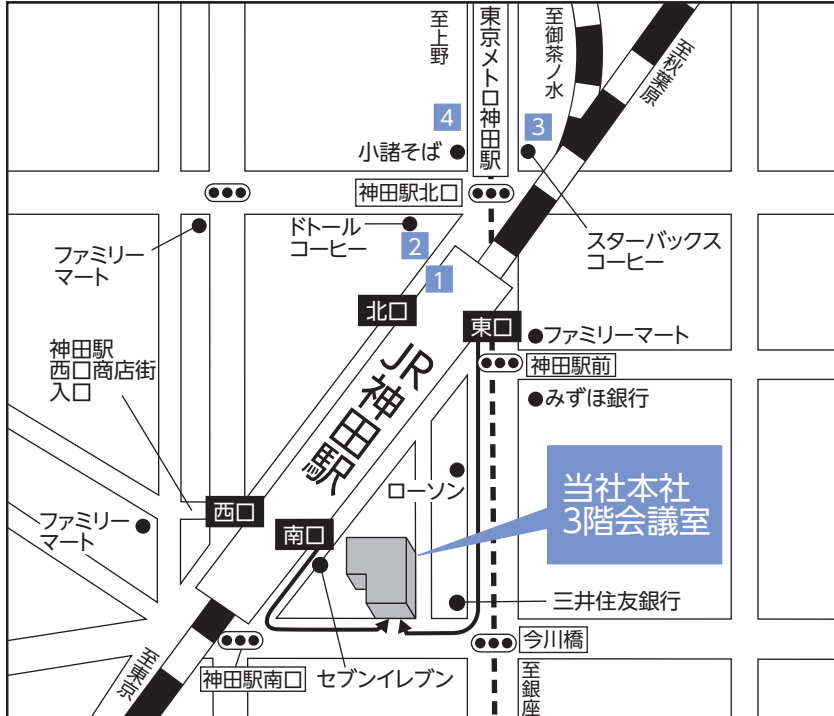


メ 毛

メ モ

株主総会会場ご案内図

会場 東京都千代田区鍛冶町二丁目1番10号
当社本社 3階会議室
TEL 03(5289)8200



- JR線「神田駅」 南口出口 徒歩2分
東口出口 徒歩3分
 - 東京メトロ 銀座線「神田駅」 1番出口 徒歩4分
- 上記ご案内図中の1・2・3・4は東京メトロ神田駅の出口です。
<ご注意>

駐車場のご用意はいたしておりませんので、あらかじめご了承くださいませ
ようお願い申し上げます。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

